五年

わらぐつの中の神様

（光村）

①　第一次第一時指導

○　本時の目標

・　物語の構成を理解し、わらぐつの中の神様の概観ができる。

〈区画〉

1　4ページ　四行目　雪が
　7ページの絵　①
2　8ページ　十行目　―昔
　9ページの絵　②
3　12ページ　八行目　その夜
　13ページの絵　③
4　14ページ　九行目　その夜
　17ページの絵　④
5　17ページ　十三行目　その次
　20ページの絵　⑤
6　20ページ　七行目　「―それ
　23ページの絵　⑥

一　よむ（音読　六区画　六人）

二　とく（読後感の話し合い）

○　（題名板書）「わらぐつの中の神様」

・　誰が誰にした物語か。

・　その話のきっかけは。

・　おばあちゃんの呼び方、後二つ。

◎（教材を考える方向を示す発問）

・　この「神様」のことを教えてくれたのは誰でマサエの何に。

○（概観する手掛かりの言葉を探す発問）

・　六枚の絵が描かれている場所を表す言葉を文章から選ぶ。

三　よむ（発問に沿って黙読）

四　かく（三　よむ　で探した言葉）

1　こたつ
2　げた屋
3　家
4　朝市
5　市
6　げんかん

五　よむ（板書を音読　一名）

六　とく（板書を活用した話し合い）

○（板書された言葉を関連付けてから区分）

・　朝市（町　野菜）→家（村　農家）

・　朝市で増えた売り物は。

・　その動機は。

・　今、赤いつま皮の雪げたはどこに。

・　そこに運んだのは誰。

・　昔の話は何番から何番。

◎（詳しく読んでいく区画の選定）

・　雪下駄に惹かれる（2）

・　わらぐつ作り（3）

・　大工さんの考え方（5）

○（授業の余韻）

七　よむ（全員で板書を指音読）

（授業を振り返りながら元気に音読）

②の1　第二次第一時指導

○　本時の目標

・　雪下駄に惹かれるおみつさんの行動と両親の対応を考える。

一　よむ（音読　2～5区画　四人）

二　とく（復習と本時へつなぐ場面の話し合い）

○（前時の六を手掛かりにおさらい）

・　1～6に書いた言葉の確認と区分

◎（本時の場面へつなぐ場面の話し合い）

・　おみつさんの人柄の確認と年齢

・　おみつさんの仕事と雪下駄

○（詳しく読む場面の視写部分の指示）

・　雪下駄の呼びかけと両親の話

三　よむ（指示に沿って黙読）

四　かく（指示にしたがって視写）

「ねえ、わたしを買って
　ください。あんたが
　買ってくれたら、
　うれしいな。」
「なんだ、雪げたなんて。
　そんなぜいたくなもん、
　わざわざ買うことは
　ねえだろう。」
「物ねだりしたことのない
　おみつのことだから、
　買ってやりたいのは
　やまやまだけどね。――まあ、
　おまえが町へよめに行く
　ようなことにでもなった
　らね――。」

五　よむ（板書を音読　一名）
六　とく（板書活用の話し合い）
○（難語句の解消と区分）
・　わたし　あんた　なんだ　ぜいたく
　物ねだり　やまやま　――
・　会話者の確認とそれぞれ二区分
◎（この場面の核心を考える）
・　三人の心情と家庭の状況
○（授業の余韻）
七　よむ（全員で板書を指音読）
（授業を振り返りながら元気に音読）

②の２　第二次第二時指導

○　本時の目標
・　わらぐつを編むおみつさんの姿を想像する。

一　よむ（音読　２～５区画　四人）
二　とく（復習と本時へつなぐ場面の話し合い）
○（第一次と前時の六のおさらい）
・　おみつさんと両親に思い
・　なだめ役に回るおみつさんの姿
◎（本時の場面へつなぐ場面の話し合い）
・　おみつさんの決意と実行力
○（詳しく読む場面の視写部分の指示）
・　完成したわらぐつの場面
三　よむ（指示に沿って黙読）
四　かく（指示にしたがって視写）
われながら、いかにも変な格好です。右と左と、大きさもちがうし、なんだか首をかしげたみたいに、足首の上のところが曲がっています。底もでこぼこしていて、ちゃんと置いてもふらふらするようです。
その代り、上からつま先まで、すき間なく、きっちりと編みこまれていて、じょうぶなことは、このうえなしです。

五　よむ（板書を音読、一名）
六　とく（板書活用の話し合い）
○（難語句の解消と区分）
・　われながら　いかにも　かしげた
　その代り　このうえなし
・　三区分（判断　事実《良否》）
◎（この場面の核心を考える）
・　おみつさんの制作意図は
・　家族の判断は
○（授業の余韻）
七　よむ（全員で板書を指音読）
（授業を振り返りながら元気に音読）

②の３　第二次第三時指導

○　本時の目標
・　若い大工のわらぐつに対する態度を考える。

一　よむ（音読　３～６区画　四人）
二　とく（復習と本時へつなぐ場面の話し合い）
○（第一次と前時の六のおさらい）
・　わらぐつの確認と家族の反応
・　市へ向かうおみつさん
◎（本時の場面へつなぐ場面の話し合い）
・　おみつさんさんと若い大工
○（詳しく読む場面の視写部分の指示）
・　急にまじめな顔になって話す大工の言葉とおみつさんの様子
三　よむ（指示に沿って黙読）
四　かく（指示にしたがって視写）
「いい仕事ってのは、見かけで決まるもんじゃない。使う人の身になって、使いやすく、じょうぶで長もちするように作るのが、ほんとのいい仕事ってもんだ。おれなんか、まだわかぞうだけど、今にきっと、そんな仕事ができる、いい大工になりたいと思ってるんだ。」
おみつさんは、こっくりこっくりうなずきながら聞いていました。

五　よむ（板書を音読　一名）
六　とく（板書活用の話し合い）
○（難語句の解消と区分）
・　見かけ　じょうぶ　今にきっと
（句点の数→ゆっくり確認しながら話す様子）
　こっくりこっくり
・　大工の言葉三区分
◎（この場面の核心を考える）
・　こっくりした回数は。
・　大工さんが頼もしく見えたのは。

○（授業の余韻）
七　よむ（全員で板書を指音読）
（授業を振り返りながら元気に音読）

③の１　第三次第一時指導

○　本時の目標
・　わらぐつの中の神様の学習を振り返り、この話の中での漢字言葉の働きを考える。（新出漢字を中心に）

一　よむ（音読　六区画　六人）
二　とく（復習と本時へつなぐ場面の話し合い）
○（第一次と前時の六のおさらい）
・　大工の話とおみつさんの態度
◎（本時の場面へつなぐ場面の話し合い）
・　その後のおみつさんと大工さん
・　マサエの変化
○（詳しく読む場面の視写部分の指示）
・　わらぐつの中の神様に出てきた漢字を板書するので、その漢字の読み方を仮名でノートに書く。
三　よむ（指示に沿って黙読）
四　かく（指示にしたがって視写）

独り
金具
迷信
正真正銘
眼鏡
気立て
看板
余計
無理
毎晩
編む
格好
慣れる
不思議
職人
夕焼け
笑う
飛び出す

五　よむ（板書を音読、一名）
六　とく（板書活用の話し合い）
○（文中の位置を考える）
・　漢字言葉を１から６に分ける。
◎（この話の大切な漢字言葉を確認する）
・　わらぐつの中の神様がいたことを表す言葉と関連する言葉は。
○（授業の余韻）
七　よむ（全員で板書を指音読）
（授業を振り返りながら元気に音読）

④の１　第四次第一時指導

○　本時の目標
・　わらぐつの中の神様の学習で印象に残ったことを手掛かりにして感想を書く。
（作文の指導法で記述の時間）

一　文話（意欲を高める話し合い）
・　今回は全文の読み聞かせ　担任
二　文題発表
・　前時に予告しておき、題の決まった者の発表
三　記述（二十分位確保）
・　ゆっくりと丁寧に。
四　自己批正
・　読み直して加除修正
・　日付と名前の確認
五　提出
・　半分に折ってから提出

④の２　第四次第二時指導

○　本時の目標
・　わらぐつの中の神様の感想文について考える。
（作文の指導法で批正の時間）

一　総評（全体の傾向を話す）
二　個評（四名程度の作品紹介）
三　優良文朗読（三名程度　本人が）
四　聴写（一名の作品を聴写する）
五　細評（聴写文の鑑賞）

＊　第五次指導は担任にお願いする。

以下略